



長崎市立三原小学校

寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」

MIHARA TIMES

令和6年1月24日発行

文責 校長 宮原 友彦

◆ 令和5年度学校評価アンケートへの御協力、ありがとうございました。

今年は12月1日～8日までの期間で、学校評価アンケートを行いました。その中で、いくつかご意見・ご質問をいただいておりますので、学校全体に関わることについて、可能な範囲でこの紙面上でお答えしようと思っております。

※ なお、個人名を記載してお尋ね・質問をしていただいた方の場合、内容によっては直接（お電話もしくはお会いして）回答する場合がありますので、ご了承ください。

<正門や黄色門が、夜でもよく開いていて、正門は特に、使用した保護者は戸締まりを徹底してほしい。戸締まりが出来ないのなら、夜間学内で集まるべきではないと感じます。>

黄色門については、開けたら最後の人が扉を閉めるよう門にも記載しているのですが徹底していないようです。赤門についても最後の人が門を閉めるようお願いしていたところですが、再度学童、バスケットクラブ、体育館使用者にも申し入れをしたところですが、青門については門が重たく、車の出入りが頻繁なため、学校閉庁日や年末・年始など長期間学校が閉まっている時のみ門を閉めるようにしているところですが、ご理解いただきますようお願いいたします。

<クラスの担任が他の児童を叱責するのを聞いて精神的苦痛を感じる様です。>

担任は、誰もが担任する子どもたちを責任もって、社会面にも学力面でもきちんと育てたい、本来の力を発揮させたいと願っています。しかし、責任感が強ければ強いほど、指導した子どもが理解しようとしなかったり、ふてくされて聞かなかったり、他の子どもを傷つけたりしたとき、さらに強く指導しがちです。その指導が時に限度を越えて、「恫喝」だったり、執拗な「叱責」となった時、指導された本人には内容が理解できないだけでなく、ただ反発を招いたり、周囲の子どもたちにとっては苦痛以外何ものでもなかったりします。もちろん命や心・体を傷つける言動に対しては毅然と対応する必要があります。しかし、「叱る」行為がいつの間にか「怒りをぶつける」行為にならないように、これからも職員と話し合っていきます。

<通学路が地割れや降雨時の水の吹き出し、雑草による蜂の被害などで危険。市に掛け合って改善して欲しい。通学路を整備して安全を確保して欲しい。>

長崎市内の各小学校には「子どもを守るネットワーク」という交通、災害、不審者から子どもたちを守る組織があります。集団下校を行うだけでなく、交通、災害、不審者問題を年7回情報交換も行っています。その場であがった内容については長崎市に改善要望を出しているところです。通学路の不備に関する専用の用紙も用意していますので、具体的な場所等を教頭にお知らせいただければと思います。また、当該地域がある自治会からの要望もあれば、より早く対応してもらえますので、同時に自治会長さんにもお願いしていただくようお願いいたします。(また、蜂の被害等は直接自治会長にご相談ください。)

<親との連絡がもう少し密に取れると良いと思います。>

意外とご存知の方が少ないのですが、教職員の勤務時間は8時15分～16時45分(途中休息45分間 ※昼休みの時間は実は勤務時間外だったりします(^^;)) 残業は法律で定められた4項目(実習、学校行事、職員会議、非常災害などに必要な業務)以外はできません。つまり、16時45分以降の仕事はサービス残業となってしまいます。これが最近話題になっている「働かせ放題」の元凶となっています。このこともあり、今まで24時間対応を望まれていた教職員は精神疾患で休職している方が全国で毎年5,000人を超えている状況です。このため、2019年に労働基準法が改正され、時間外労働の上限は、原則として月45時間・年360時間を超えてはいけなくなりました。そのことに対応するため、令和2年度より、市PTA連合会と校長会で協議し、長崎市内の公立小・中学校は電話での対応を7:30～17:30と統一しています。また、個人所有の携帯電話やSNSでの連絡は固く禁じられていますので、できるだけ時間内は電話連絡、時間外は学校代表メール(校長、教頭が確認しています。)で連絡するようお願いいたします。

また、来年度は面談や懇談会など直接お話する機会も増やすように検討中です。不自由をおかけしますが、よろしくご協力をお願いいたします。

<体育の時の更衣室を、1年生から用意して頂きたい>

50年以上前に建てられた三原小には、本来子どもたちの更衣室は作られていません。現在、2年生以上については、もともと別の用途の特別教室等を狭いながらも譲り合って利用して、体育等の更衣を行っているところです。1年生においては、他に同一階に更衣専用の場所が用意できないというのが大きな理由の一つですが、今のところ以下の理由で、男女別に更衣室を用意できていません。

1. 発達段階的にまだ幼く、男女未分化の段階であり、保育園、幼稚園でも男女一緒に更衣していたのに、急に男女別に更衣室を分けてしまうと、中途半端に好奇心を刺激し、着替えを覗き見したり、異性に対して暴言を吐いたりするなどの問題が発生する可能性がある。
2. まだ社会的なルールやマナーを十分に身につけていない段階でもあるため、更衣時に洋服をたたんだり、整理整頓したりするなどのきまりをきちんと身に付ける必要がある。
3. 担任は1人しかいないため、男女いずれかの場所が、子どもたちだけで閉鎖空間を使用させることになり、遊びだしたり、更衣に時間がかかったり、意地悪をする子どもがいても把握しにくかったりなど、安全面や保安上の観点からも望ましくない。

と考えています。しかし、児童の早熟化も言われるようになってきており、男女間の違いや、異性に対する羞恥心などを理解させていくことも大切なことなので、今後検討していきたいと思っております。

<通級指導教室を是非作っていただきたいです。>

通級指導教室は年々必要性を実感しているところです。通級指導教室で子どもたちがもっているコミュニケーションなどの課題を解決することで、学校生活をより楽しく活動できる子どもが増える可能性があると思っています。

本校でも、令和元年から申請しているところですが、残念ながら現在まで開設にいたっていません。通級指導教室に関しては、学校に在籍する通常学級から希望する児童が現在13名以上いることが最低条件で、それ以下の人数の場合は近隣校にある通級指導教室に通うこととなってしまいます。そうすると、他校まで通う時間や費用などが別にかかり、負担が増すこととなります。授業時間が多い中・高学年では難しくなってしまいます。

しかし、常時開設となると、教諭1名が増えることに伴う人件費、またその教室運営用の予算もつくことになるため、県教育委員会の許可がなかなか下りないのが現状です。しかし、必要なことですので、今後も粘り強く申請していきたいと思っております。その際は同意書等ご協力いただきますようお願いいたします。

＜校庭の遊具が少ないと感じます。児童数が少ない分、お友達や学校の先生をはじめ

人間関係も楽しく学んでいって欲しいと思う。＞

・R3年度…長年使用禁止になっていたジャンボすべり台を一部撤去、ブランコの補修、ジャングルジ

ムの新設

・R4 年度…体育館通路の補修、砂場の補修、体育館下の電灯の設置

・R5 年度…ターザンロープなどの丸太の補修、古タイヤの廃棄

現在、滑り台を申請していますが、学校単体で遊具を購入するのは金額的に難しく、長崎市教育委員会に希望を出していますが、市内 60 数校が順番待ちの状況です。

かつてあったジャンボ滑り台は光仁会病院が三原小学校と西山台小学校に寄贈していただいたものです。せめて、古くなった遊具をペンキできれいに塗るだけでも、もう少し長持ちしそうなのですが、人手と予算が厳しいのが現状です。それ以上の遊具となると、今度は運動場が狭くなるため、体育の授業に支障が出てしまいます。ご理解いただければと思います。

また、今年度から教師、子ども同士の交流を増やすために、交流遊び「なかよしタイム」が復活しました。今後も感染症の流行の具合を見ながら、特別活動等、交流を深めていきたいと考えています。

宮原のつぶやき

学校評価アンケートへのご回答、ありがとうございました。みなさんからのご意見について、真摯に受け止め、職員と検討し、回答したつもりですが、ご納得いただけたでしょうか。

三原小には学校の「教育理念」というものを設定しています。「**寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ!**」です。ご存じなかった方は、ぜひ今回覚えてください。

学校、保護者、地域のみんなが知恵を出し、汗を出し合って、子どもたちの成長を支援していきましょうということです。三者のいずれかだけが頑張っても、十分に成長することができません。「啐啄同時」という言葉があります。『学ぼうとする者と教え導く者の息が合って、相通じること』という意味ですが、もともとは鳥の雛が卵から出ようと嘴でつつき、鳴く声と、母鳥が外から殻をつつのが同時であるということからできた言葉です。子どもの自らの意思で伸びたい、またそれを支えたいという周囲の気持ちが合わさって、心身ともに大きく成長できるものだと思います。それを実現するためにも、これからさらに保護者との直接的な懇談会や面談、ICT を活用しての子どもの実態の把握や個人面談などコミュニケーションを深めることが必要です。

これからも三原っ子のために、ぜひお知恵とお力をお貸しください。また、それぞれが果たすべき役割をしっかりと果たしていくよう努めましょう。ぜひ、よろしく願いいたします。